

令和7年度 大田区立洗足池学校 自己評価 報告書

令和8年3月6日

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄											
								評価	%	コメント									
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来し 社会 すを 創造 的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	2学期の「校内研究に関する児童アンケート」 「国語科やその他の教科で学んだことを、総合的な学習の時間に生かすことができましたか。(4～6年)」 の「当てはある」「どちらかといえば当てはまる」との回答の合計	4 : 9 5 % 以上	【これまでの主な取組】 ・教科等横断的な視点での研究授業の実施。他教科で身に付けた資質・能力を総合的な学習の時間で活かすことの重視。 ・多様な出前授業や、校外学習等による体験的学習の充実。 ・大田区独自教科「おたの未来づくり科」(5・6年生)の開始。	A	50	・授業参観では、考えを児童同士で共有する授業のスタイルが見られた。評価は3でもよいと思う。 ・授業やそれ以外でも、地域との関わり合いが充実している。児童は、学んだことを自分でまとめる力が身に付いていると思う。評価はもっと高くよいのではないかと。 ・児童同士で話し合う活動が充実している。他者を受け入れる姿勢がとてよい。 ・タブレット端末を低学年のうちから使いこなしている一方で、手書きの大切さもしっかりと指導がされている。 ・児童自身が「できている」と自信をもていない様子がある。自己肯定感の向上が課題である。									
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								3	【成果指標の分析、課題等】 ・児童アンケートの肯定的回答の割合が84.1%と、成果指標の「3」にあと一歩届かなかった。(全国学力・学習状況調査の同様の質問項目の結果は、全国や都の平均よりも高い結果となっている。)教科等横断的な学びが課題解決力や新たな価値の創造力につながっていることを児童が実感できるような指導が求められる。 ・情報モラル教育、情報リテラシー教育の計画的な実施が求められる。	B	33	・現状や課題の分析がきちんとなされている。情報モラル教育や情報リテラシー教育の計画的な実施を期待する。 ・展覧会ではSDGsを意識して廃材等を使用しながらも、それが芸術にまで昇華している作品が多かった。 ・評価は3～4でもよい。				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。													3	2: 7 5 % 以上	C	17
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが 人国 を際 育都 成市 します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	12月の学校評価保護者アンケート 「(学校は)ALTを活用した授業や、東京科学大留学生との交流などを通して、英語での実践的なコミュニケーション能力の育成を図っている。」 の肯定的回答の割合	4 : 9 5 % 以上	【これまでの主な取組】 ・東京科学大留学生との交流の実施。 ・外国語教員と連携した外国語教育の実施。 ・海外在住歴のある方をゲストティーチャーとしてお呼びした出前授業の実施。(4年生) ・校外学習先(浅草寺)での外国人観光客への英語でのインタビュー。(4年生)	A	50	・留学生との交流会等で、異なる文化や価値観を理解する場が提供されており、他の学校にはあまり無い教育環境が整っている。将来、地球規模で物事を考えることができる人材を育てることに貢献している。評価は4でもよいと思う。 ・留学生にとっても、国際交流の貴重な場になっている。 ・留学生との交流は、引き続き進めてもらいたい。 ・留学生以外でも、世界の人々との交流ができるとう面白。 ・4年生が行った校外学習での外国人へのインタビューは、東京科学大留学生との交流で得た英語でのコミュニケーション力を活かすよい機会になったと思う。 ・展覧会では、日本の音ながらの建築物や版画なども扱っており、我が国の伝統や文化もしっかりと指導されている。									
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								3	【成果指標の分析、課題等】 ・保護者アンケートの肯定的回答の割合は94.5%で、成果指標の「4」にあと一歩届かなかったが、他の質問項目に比べて「とてもそう思う」という最上位の回答割合が大きく、本校の外国語教育の取り組みが一定の評価を得ていると考えることができる。 ・東京科学大留学生との交流は、英語を実践的に活用できるともよい機会だが、少ない学年では年に1回しか交流できない。このような機会を増やしていくことが課題である。 ・東京科学大留学生との交流を今後も続けていくために、次の担当者へノウハウを継承していくことが課題である。	B	50					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												3	2: 7 5 % 以上	C		
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															D	
た一個 人の 目基 と標 礎り3 がな 個性 力と を能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	12月の学校評価保護者アンケート 「算数少数指導や読書活動の充実、区漢字検定の実施等を通して、基礎学力の向上を図っている。」 の肯定的回答の割合	4 : 9 5 % 以上	【これまでの主な取組】 ・道徳教育推進教師による教員向け道徳授業講習会の実施。 ・全学年での算数習熟度別少人数学習の実施。 ・区の漢字検定の実施。 ・家庭と連携した早寝早起き朝ごはんの推進。 ・保育園、幼稚園等と新入学児童の情報共有会の実施。 ・中学校との児童・生徒の情報交換の実施、年4回の小中一貫教育(相互授業参観)の実施。	A	100	・習熟度別授業、幼稚園、保育園、中学校との情報共有会の実施などにより、一人一人の能力や個性を伸ばす環境が整っている。この評価でよい。 ・きめ細やかな指導が子どもたちの意欲を高めていると思われた。 ・道徳の授業が充実していると感じた。 ・運動会ではインフルエンザで欠席した児童を念頭に、校長先生が「ここに来ることができないお友達のことを考えましょう。」と話されたことに感動した。 ・運動会の6年生の「表現」は、ありとあらゆるスポーツ技能を盛り込んでおり、体育教育の集大成と言えるものだった。									
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								4	【成果指標の分析、課題等】 ・保護者アンケートの肯定的回答の割合は97.4%で、本校の基礎的学力向上への取り組みが保護者の評価を得ていると考えることができる。また、ほぼ全ての教員が、本校の今年度の取り組みが目標を達成したと考えている。	B						
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											4	2: 7 5 % 以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													C			
た一個 人の 目基 と標 礎り3 がな 個性 力と を能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	12月の学校評価保護者アンケート 「算数少数指導や読書活動の充実、区漢字検定の実施等を通して、基礎学力の向上を図っている。」 の肯定的回答の割合	4 : 9 5 % 以上	【これまでの主な取組】 ・道徳教育推進教師による教員向け道徳授業講習会の実施。 ・全学年での算数習熟度別少人数学習の実施。 ・区の漢字検定の実施。 ・家庭と連携した早寝早起き朝ごはんの推進。 ・保育園、幼稚園等と新入学児童の情報共有会の実施。 ・中学校との児童・生徒の情報交換の実施、年4回の小中一貫教育(相互授業参観)の実施。	A	100	・習熟度別授業、幼稚園、保育園、中学校との情報共有会の実施などにより、一人一人の能力や個性を伸ばす環境が整っている。この評価でよい。 ・きめ細やかな指導が子どもたちの意欲を高めていると思われた。 ・道徳の授業が充実していると感じた。 ・運動会ではインフルエンザで欠席した児童を念頭に、校長先生が「ここに来ることができないお友達のことを考えましょう。」と話されたことに感動した。 ・運動会の6年生の「表現」は、ありとあらゆるスポーツ技能を盛り込んでおり、体育教育の集大成と言えるものだった。									
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								4	【成果指標の分析、課題等】 ・保護者アンケートの肯定的回答の割合は97.4%で、本校の基礎的学力向上への取り組みが保護者の評価を得ていると考えることができる。また、ほぼ全ての教員が、本校の今年度の取り組みが目標を達成したと考えている。	B						
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											4	2: 7 5 % 以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。													C			
た一個 人の 目基 と標 礎り3 がな 個性 力と を能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	12月の学校評価保護者アンケート 「算数少数指導や読書活動の充実、区漢字検定の実施等を通して、基礎学力の向上を図っている。」 の肯定的回答の割合	1 : 7 5 % 未 満	【これまでの主な取組】 ・道徳教育推進教師による教員向け道徳授業講習会の実施。 ・全学年での算数習熟度別少人数学習の実施。 ・区の漢字検定の実施。 ・家庭と連携した早寝早起き朝ごはんの推進。 ・保育園、幼稚園等と新入学児童の情報共有会の実施。 ・中学校との児童・生徒の情報交換の実施、年4回の小中一貫教育(相互授業参観)の実施。	C	100	・習熟度別授業、幼稚園、保育園、中学校との情報共有会の実施などにより、一人一人の能力や個性を伸ばす環境が整っている。この評価でよい。 ・きめ細やかな指導が子どもたちの意欲を高めていると思われた。 ・道徳の授業が充実していると感じた。 ・運動会ではインフルエンザで欠席した児童を念頭に、校長先生が「ここに来ることができないお友達のことを考えましょう。」と話されたことに感動した。 ・運動会の6年生の「表現」は、ありとあらゆるスポーツ技能を盛り込んでおり、体育教育の集大成と言えるものだった。									
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								3	【成果指標の分析、課題等】 ・保護者アンケートの肯定的回答の割合は97.4%で、本校の基礎的学力向上への取り組みが保護者の評価を得ていると考えることができる。また、ほぼ全ての教員が、本校の今年度の取り組みが目標を達成したと考えている。	D						
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											3	1: 7 5 % 未 満				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																

<p>学個別校力目・教4師力を向上させます</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>12月の学校評価保護者アンケート</p> <p>「(教員は)いきいきと働いている。」の肯定的回答の割合</p>	<p>4 : 9 5 % 以上</p>	<p>【これまでの主な取組】 ・メンター・メンティ研修やスキルアップ研修など、中堅以上の教員が各自の専門分野を生かし、若手に指導する研修の実施。 ・洗足池や呑川、東京科学大学、商店等、地域の資源を生かした学習活動の実施。 ・通知表の担任記述量の削減、分掌組織のスリム化、ICT活用による会議時間の短縮等の業務改善の実施。</p> <p>【成果指標の分析、課題等】 ・保護者アンケートの肯定的回答の割合は97.1%で、本校の教員は生き生きと働いているように映っているようである。しかし、教員自身は、業務適正化に対して満足していない結果となっており、教員が働きやすい環境となるよう、引き続き業務改善に努めていく必要がある。</p>	<p>A 83</p>	<p>・児童と教員のコミュニケーションが円滑で、教員が児童から信頼されている様子が見える。この評価で妥当である。 ・教員と保護者に温度差がある。教員の大変さが一部の保護者に伝わっていない気がする。 ・教員が児童と向き合う時間をより多く確保するために、業務の見直しなどの努力がなされていることがよく分かる。 ・教員自身が業務適正化にまだ満足していないとの結果もあり、引き続き教員の働きやすい環境づくりに努めてほしい。 ・学校だけで解決できないこともあり、行政にも力を入れていきたいと思ふ。 ・特別支援学級の音楽の授業では、各自が自分の演奏する楽器を使いこなしていた。参観者を笑顔で迎え入れてくれ、先生方の指導の素晴らしさを感じた。 ・教員の手がきれいである。ICT端末も使いこなしている。時間のロスが生じない分、児童の思考力を伸ばす時間的な余裕もできると思われる。 ・展覧会では、電動のこぎりやミシンを使った高度な作品があり、目を惹いた。</p>
<p>た自個め別の目学し標びく5をいき援いきと生きる</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えらるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>12月の学校評価保護者アンケート</p> <p>「(学校は)いじめの未然防止、早期発見、早期対応に全力であたるため、いじめ防止基本方針を策定し(学校HPに掲載)、いじめに対して組織的に対応する体制を整えている。」</p> <p>の肯定的回答の割合</p>	<p>4 : 9 5 % 以上</p>	<p>【これまでの主な取組】 ・不登校傾向児童の居場所づくりのため、校内教育支援センターを設置。 ・支援が必要な児童への対応を協議する、特別支援校内委員会を月に2回程度、定期的に開催。特別支援教室教員や専門員、スクールカウンセラーの出席。 ・週に1回、いじめ情報を共有するための連絡会の開催。いじめ発覚時には随時いじめ・不登校防止対策委員会の開催。いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向け、学期ごとにいじめアンケートを実施。 ・「いじめ」をテーマにした道徳の授業を年3回以上実施。</p> <p>【成果指標の分析、課題等】 ・保護者アンケートの肯定的回答の割合は95.2%で、本校のいじめに対する取り組みへの理解が浸透していると考えられている。多くの教員も、いじめに対して計画的かつ組織的な対応が実施できていると感じている。 ・発覚したいじめが解消しているかどうかの確認を、学年をまたいででも次の担任に確実に引き継ぐことが課題である。</p>	<p>A 100</p>	<p>・校内の環境整備、組織的な取組が実施されているように見られる。評価は妥当である。 ・登校しにくい児童が、他人の目を気にせず過ごせる場所があることはよいと思う。 ・子どもたちに寄り添った指導ができていると思われる。 ・いじめ問題への対応が丁寧である。いじめがなくなった後の聞き取りもしっかりして経過を見守るなど、きめ細やかな対応ができている。 ・相手が嫌だと思ったら「いじめ」になる、という相手の気持ちを考えて指導がよいと思う。 ・いじめに対して様々な角度から対策や対応をしており、教員の努力を感じる。</p>
<p>安柔個心軟別なで目教創標育造6環的境なを学習く空間と安全</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>12月の学校評価保護者アンケート</p> <p>「2-5(学校は)危険防止の方法を身に付けさせている。」</p> <p>の肯定的回答の割合</p>	<p>4 : 9 5 % 以上</p>	<p>【これまでの主な取組】 ・教員による、校内安全点検の毎月実施。 ・毎月の安全指導、月ごとに想定を変えた避難訓練の実施。 ・教員が通学路に立つての下校指導の実施。 ・児童が校内にいる時間帯(授業時間及び放課後児童利用時間まで)の校門施錠。 ・校門鍵の開閉をリモート操作で可能に。 ・校門から児童、子どもひろばへ連絡できるインターホンの設置。</p> <p>【成果指標の分析、課題等】 ・保護者アンケートの肯定的回答の割合は、90.8%であり、やや低い結果となった。対して避難訓練や安全指導の取組に対する教員の肯定的評価は95%以上と高くなっており、保護者と教員の受け止め方に差が見られる。学校のこれまでの取り組みを保護者に伝え、学校が行ってきた安全教育を理解してもらう必要がある。同時に保護者が求める「危険防止の方法」とは何なのかを分析し、保護者のニーズに応じていく必要がある。</p>	<p>A 67</p>	<p>・災害の多い昨年、防災教育は重要であり、毎月のように行っている避難訓練等は有効である。一方でSNSによるいじめなどもあり、ICT教育をさらに進めていくことも必要である。評価は妥当である。 ・地域と連携した避難訓練が必要であると感じている。 ・教員による安全点検実施、校門の施錠など、安心・安全に学校生活を送れる環境が整っているように感じた。</p>
<p>学地学個校域校別をコ・目ツミ家標ク庭7リニ・まテ地すイ域の核運と携して協働による</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>12月の学校評価保護者アンケート</p> <p>「2-7(学校は)教育活動に地域力を生かしている。」</p> <p>の肯定的回答の割合</p>	<p>4 : 9 5 % 以上</p>	<p>【これまでの主な取組】 ・洗足池小防災活動拠点訓練実施。 ・干束スポーツまつりへの教員参加。 ・PTAによる登校見守り。 ・PTAによる様々なイベントを校内で開催。 ・地域学校協働本部、スクールサポート洗足池(SSS)による通年の読み聞かせ活動や、夏のわくわくスクールでの講座開催。 ・10月よりコミュニティスクールとして始動。学校運営協議会の開催。</p> <p>【成果指標の分析、課題等】 保護者アンケートの肯定的回答の割合は94.6%で、成果指標の「4」にはあと一歩届かなかったが、高い評価を得ていると考えられる。</p>	<p>A 67</p>	<p>・地域行事を行う場合の区割りや小学校区の区割りが異なっているため本校の児童と関われないこともある。今後は本校のPTAと連携して子どもたちと関わってほしい。 ・地域と保護者の関わりが少ない気がする。PTAを中心に地域とさらに関わってほしい。 ・コミュニティスクール化を契機に、地域全体で児童を見守り、学校が必要とするサポートができるよう、地域と行政、学校の関わりが増えるとうい。 ・運動会に自治会の方々が大量参観に来ていることがよい。 ・民生委員児童委員が普遍に関わっている。 ・石川会中の学校公開に、洗足池小の児童が大量参観しており、親密な関係が築かれている。 ・評価は4でよいのではないかな。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数(本校は、評価した人の割合)を記載する。